

2025 年度

文学部 中国文学科総合型（小論文型）

三国志 サンプル問題

60 分 100 点



『帝国文庫 校訂 通俗三国志 一』による。

A 「おれの屋敷の裏に桃園があつて、いま花がまつ盛りだ」と張飛が言つた。

「明日、まずあそこで天地の神々を祭り、われら三人、義兄弟の契りを結んで、力を合わせ心を一つにすることを誓おうではないか。旗を挙げるのはそれからだ」

「それはよい考えた」

玄德と雲長は同音に言つた。

あくる日、桃園に黒牛・白馬・紙銭等を用意し、三人は香を焚き再拝して誓いの言葉を述べた。

ここに劉備・関羽・張飛の三名は、姓を異にするといえども、すでに兄弟の契りを結びし上は心を

同じゅうして力を合わせ、困苦にある者を救い、上は国家に報じ、下は*民草を安んぜん。同年同月同日に生まれんことは得じとも、願わくは同年同月同日に死せん。天地の神々よ、われら*赤心をこ

照覧あれ。義に背き恩を忘るる輩は天人ともにこれを*誅滅せん。

誓いを終わり、玄德を兄、関羽を次兄、張飛を弟とした。

(立間祥介訳『三国志演義(改訂新版)』による)

*民草 人民。 *赤心 うそいつわりの無い心。誠意。 *照覧 神仏が御覧になること。 *誅滅 罪あるものを滅ぼすこと。

問一 AとBに見られる劉備、関羽、張飛三人の関わりについて、あなたはどのように考えるか。現代における人間関係と比較した上で、三〇〇字以内で述べなさい。

問二 傍線部を読み、ここに描かれた三人の「誓いの言葉」を参考にして、社会における様々な困難に私たちはどのように向き合うことができるか、あなたの考えを三〇〇字以内で述べなさい。